

教材名『がんばる』はぼくの宿題

内容項目：主として人との関わり—親切思いやり 廣済堂あかつき6年 p. 138

1. 本教材について

\*相手を思いやるということは、「正解」がないということを知りやすく問いかける優れた教材。

\*鎌田實さんの文章。<http://www.kamataminoru.com> (鎌田實 オフィシャルサイト)

鎌田さんは、長野県で地域医療に従事。チェルノブイリ事故後の被ばく者の治療、イラク支援、また東日本大震災以降は、被災者支援にも取り組む。そういった背景にもふれたい。

\*多くの病気や病人を扱った教材は、「最後まで頑張る」病気で苦しむ人物、それを助ける周囲の人物と言う構図が多いが、この鎌田さんの作品には、励ましの言葉が時には相手を追い詰めてしまうこともあるということに気づいたこと、そこで鎌田さん自身が苦しんで考えたことが、わかりやすい文章で綴られている。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

親切、思いやりということは、簡単にこれが正解であるというものではない。

相手の置かれている状況を理解することも、大変難しいことであることを深く考え合いたい

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	目の前に病気で苦しんでいる人がいたら、なんて声をかけますか？ 自分が深刻な病気の時は、なんて声をかけてほしいですか？	身近な人が病気だった経験がないと考えるにくいテーマであるかもしれないが、自由に考えたい。
展開	グループワークで読み取りをしよう *がんばるのは当然で好ましいことと「ぼく」が考えていた *女性患者さんから「もう・・・がんばれません」と言われたとき、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。 *「ぼく」がその後、その患者さんにしてあげたことは？	当時—30歳そこそこの青年医師だったことに注意 「考えて考えて、ついに正解は見えませんでした」に注意
まとめ	*患者さんはどうなったと思いますか 別冊の「思いやりには一つの答えはありません」に注意 別冊の2つの設問でまとめる *相手の立場に立つ」とはどういうことなのでしょう *「本当の思いやり」とはどういうものだと思いますか。	正解はないことを確認しながら自由に自分のこととして考える

5. 参考資料

鎌田實『がんばらない』（集英社文庫） 『がんばらないけどあきらめない』（集英社文庫）